

研究主題について

1 研究主題

メディア・ICT で実現する主体的・対話的で深い学び

2 主題設定の理由

現代のネットワーク社会においては、ビッグデータの活用や AI といった技術革新により、産業のあらゆる分野で急激に変化し続けている。学習指導要領では、このような予測困難な時代に児童一人一人が未来の創り手となるよう、「何を学ぶか」（知識・技能）も重視しつつ、それが生きて働く知識となるために「何ができるようになるか」（資質・能力）を重視し、資質・能力の「三つの柱」を偏りなく実現することとしている。それを踏まえ、私たちは、児童の資質・能力の育成に向けて ICT を最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することにより、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる必要がある。

令和2年3月には、新型コロナウイルス感染防止のために臨時休業となり、3ヶ月間学校の教育活動が概ね停止するといった状況に陥った。その対応として、令和元年に示された GIGA スクール構想が前倒して実施されることになり、令和3年度に児童1人1台の ChromeBook が配備された。今年度から新たにデジタルドリルが全市で導入され、データの利活用についても推進されるものと思われる。

これまで、視聴覚教育や放送教育においては、全ての教室で ICT を生かし、メディアを活用し、視聴覚的手法を取り入れた学びが日常的に展開され、児童に生きる力を育む教育が展開されることを目指してきたが、GIGA スクールの実現に向け、本部会で行うメディアや Chromebook を含めた ICT 活用の実践的な研究とその成果の共有は、私たち教師にこれまで以上に求められているのではないだろうか。

「メディア」には、放送番組や映像教材、デジタル教科書・デジタル教材などのコンテンツがあり、教科の本質に触れられる優れた教材が数多く存在する。「ICT」には、ネットワーク端末、電子黒板、実物投影機などの機器や、協働学習や個に応じた学びを支援するアプリケーションなどがある。平成28（2016）年の『2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会』最終まとめでは、ICT 活用の特性・強みとして3点挙げられた。

- ① 多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、カスタマイズが容易であること（観察・実験で得たデータなどを入力し、図やグラフ等を作成するなどを繰り返し行い試行錯誤すること）
- ② 時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超えること（距離や時間を問わずに児童生徒の思考の過程や結果を可視化する）
- ③ 距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること（教室やグループでの大勢の考えを距離を問わずに瞬時に共有すること）

これらの特長を踏まえ、その基盤となっている情報活用能力を着実に育成しながら、児童自身が ICT、特に Chromebook を学びの道具として活用することが重要である。

私たち教師に求められるのは、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、これらのメディア・ICT の特性を生かした学習過程をデザインすることであろう。教科単元の本質を見極めながら、あるいは教科を横断しながら単元を構想する。児童の思考過程や関わり合いをイメージしながら必要となる資質・能力を見極め、育成するための工夫や努力が必要になる。

本部会での実践によって、主体的・対話的で深い学びが児童の中に生起し、メディアや ICT がその深まりに大きな役割を果たすことが確認され、今後の教育活動に生かされることを期待する。